

2022. 3. 20 (日) マタイ28:18~20

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

<説教>

「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」とイエスは再びみもとにお召しになった十一人の弟子たちにご自分の権威を宣言なさいました。

この最高・至高の権威をもって「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」と彼らにイエスはお命じになりました。

このイエスの弟子たちに対する宣言、命令は、私たちキリスト教会に対する宣言、命令だと私たちは受け取ります。

私たちが、教会が心から全く信頼し、愛し、恐れ、そのことばに聞き、そのあとにつき従うべき唯一の「かしら」であり、「主」であり、「救い主」であるお方は、〈天においても地においても、すべての権威が与えられてい〉るイエス・キリストです。

私たちの罪のために十字架で死なれ、三日目によみがえられ、天と地の全ての権威を与えられ、高く上げられ、全ての名にまさる名を与えられた（ピリピ 2:9）イエス・キリストを、その福音を〈あらゆる国の人々〉のところに〈行って〉（「全世界に出て行き」マルコ 16:15）告げ知らせなさい、福音を聞いて学んで信じてイエスに従うイエスの弟子としなさいとイエスのご自分の教会にお命じになりました。

そのイエスの命令に従って〈行って、あらゆる国の人々を弟子と〉する教会が特に行うべき二つのことをイエスはお命じになり、委託なさいました。

それが〈父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け〉ること（19b）、そして〈わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教え〉ること（20a）です。

バプテスマについては先主日に見ましたので、本日は〈教え〉ることについてです（弟子と「される」側からすれば〈教え〉「られる」ということになりました）。

実際、〈バプテスマを授け〉るに至るだけでも文字通り「産みの苦しみ」がありますから、〈バプテスマを授け〉たら「やれやれ」と言いたいところですが、そうはいきません。

これは洗礼式の後によく言われることだと思いますが、バプテスマはキリストの学校の「卒業」ではなく「入学」です。

〈父、子、聖霊〉なる神「の中へ」入れられることであり、殊に〈イエス・キリストにつく〉（ローマ 6:3）こと〈キリストとともに葬られ…キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように…新しいいのちに歩む〉（同 6:4）スタートです。

そして、〈バプテスマを授け〉られた人への、また〈バプテスマを授け〉た教会への悪魔の攻撃、誘惑もまた新たにスタートするのです。

〈父、子、聖霊〉なる神「の中から」、イエス・キリストから引き抜き、離れさせ、自

分の側につくようにしようと悪魔が激しく攻撃し、誘惑して来るのです。

既に学んだように（マタイ 4 章）、イエスご自身がバプテスマのヨハネからバプテスマをお受けになった直後に荒野で悪魔の誘惑を受けられました。

しかしそこでイエスは神のみことばによって悪魔の誘惑と攻撃に勝利なさいました。

同じように私たちも〈御霊の剣、すなわち神のことば〉（エペソ 6:17）によって悪魔と戦うのです。

そのためには〈神のことば〉を〈守るように〉〈教え〉られなければならず、また〈教え〉なければなりません。

〈御霊の剣、すなわち神のことば〉とは〈わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのこと〉と同じです。

〈父、子、聖霊の〉〈権威〉ある〈教え〉、イエスが既に〈権威ある者として教え〉（マタイ 7:29）なさい、お命じになった〈すべてのこと〉を〈守るように〉〈教え〉また〈教え〉られなければなりません（つまり学ばなければなりません）。

私たちはそのことを〈世の終わりまで、いつも（直訳「すべての日々」）〉続けなければなりません（〈教えなさい〉は文法的にも継続の意味の形です）。

使徒ヨハネは言います。〈もし私たちが神の命令を守っているなら、それによって、自分が神を知っていることが分かります。〉（I ヨハネ 2:3）、〈しかし、だれでも神のことばを守っているなら、その人のうちには神の愛が確かに全うされているのです。それによって、自分が神のうちにいることが分かります。神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません。〉（同 2:5-6）、〈神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。〉（同 5:3）

私たちは、神の命令を守り、神を知り、神のうちにおり、神のうちにとどまり、イエスが歩まれたように歩み、神を愛するように神によって、イエス・キリストにあって選ばれ召された者です。

ですから神の召しのうちにとどまり続けなければなりません。

神から召された者にとって〈重要なのは神の命令を守ることです〉。（I コリント 7:19）

〈人間の奴隷〉となるのではなく（同 7:23）、神に召された〈キリストに属する奴隷〉（同 7:22）として続けて神の召しのうちに留まり、神のみことばのうちに留まり、神のみこころを求め続け、神のみこころに従い続けるのです。

使徒パウロが「それぞれ召されたときのままの状態、神の御前にいなさい。」（I コリント 7:24。cf 同 7:17,20）と言うのはそういう意味であって、「現状維持せよ」とか「身分や境遇を変えてはいけない」のことを言っているではありません。

むしろ「現状維持」が〈罪にとどまる〉（ローマ 6:1）ことであるなら、それが神の召しであるはずがありませんから、お召しになった神の命令に従い、〈心を新たにすることで、自分を変えていただく〉（同 12:2）のです。

〈神のみこころは何か〉、私たちが守るべき神の命令は何か、神の〈教え〉はどうか、イエスが〈命じておいた、すべてのこと〉とはどういうことなのか、まずは学んで知るようになければなりません。

それはもちろん、神のみことば、聖書から学ぶのです。

〈教え〉る者も〈教え〉られる者も、どちらも共に聖書から学ぶのです。

そして私たちは〈教え〉る者も〈教え〉られる者も、どちらもイエスが〈命じておいた、すべてのこと〉を知るには余りにも〈知恵に欠けている〉(ヤコブ 1:5)のですから、その知恵を神に生涯をかけて祈り求め続けるのです。

悪魔の攻撃・誘惑に対抗するためには神のみことばと取ると共に〈どんな時にも御霊によって祈〉らなければなりません。(エペソ 6:18)

イエスもバプテスマを受けられた後、すぐに祈られました(ルカ 3:21)。

私たちはそのイエスに倣い、みことばに従い、イエスが私たちにお命じになったすべてのことを守るように世のおわりまで〈教え〉続け、また〈教え〉られ続けるのです。